研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-169		20-051	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Alcohol misuse and separation from military service: A dyadic perspective
アルコール乱用と軍からの離隊：軍人・配偶者の２者の視点から

執筆者

Porter B, Rodriguez LM, Woodall KA, Pflieger JC, Stander VA.

掲載誌

Addict Behav. 2020 Nov;110:106512. doi: 10.1016/j.addbeh.2020.106512.

キーワード	PMID
軍人　配偶者　アルコール乱用　離隊	32623237

要　旨

目的：アルコール乱用は、軍人とその配偶者に広く見られる問題である。軍人のアルコール乱用は、職務遂行能力低下、法律違反、身体的基準からの逸脱の原因となる。配偶者のアルコール乱用は、軍人生活の問題を示唆する可能性がある。しかし、軍人やその家族のアルコール乱用による職務転帰、特に離隊への影響についての報告は少ない。本研究では軍人およびその配偶者のアルコール乱用と離隊の関連について検討した。

方法：2011～2013 年の米国軍人コホートである Millennium Cohort Study とその配偶者コホートである Millennium Cohort Family Study を突合し、異性夫婦かつ軍人と民間人／退役軍人の組み合わせからデータ欠損を除く 7,965 組を対象とした。ロジスティック回帰分析を用い、軍人・配偶者それぞれのアルコール乱用（短時間大量飲酒、問題飲酒、習慣的大量飲酒）と、後の離隊との関連を検討した。性、パートナーのアルコール乱用、メンタルヘルス、兵科を調整因子とした。

結果：調整後のロジスティック回帰分析において、軍人本人の問題飲酒は離隊と関連していた(オッズ比[OR]: 1.41, 95%信頼区間[CI]: 1.09-1.82)。また、軍人本人の習慣的大量飲酒は、女性軍人では離隊と強く関連していたが(OR: 8.35, 95% CI 2.84-24.55)、男性軍人では関連していなかった(OR: 1.02, 95% CI: 0.74-1.42)。軍人と配偶者の短期間大量飲酒と離隊の関連には交互作用があり、どちらか一方のみの場合は離隊の可能性は低いが、両方の場合は、離隊リスクがわずかに高い傾向があった(OR: 1.25, 95% CI: 0.96-1.62)。

結論：軍人本人のアルコール乱用は、配偶者のアルコール乱用より離隊に強く関連していた。また、女性軍人の習慣的大量飲酒は、離隊を強く示唆する指標であった。